から続き」
の内科医から事前に私の諸データは既に引き継ぎされていた様で、担当医師
めて病名を伝えられた。『多発性骨髄腫]です。かなり進行しているようです。
骨髄精研に骨髄を出しますので…。いずれにしても明日から入院出来ますか
えっ?明日からですか?』自分でもこんな急展開を予想していなかっただけに面
た感のまま、たて続けに『先生、実は息子の結婚披露宴が連休の最終の子
日に有るので、何とか連休明けからの入院では不味いですか?それに…仕事で
も出来ていないので…』『うーん、実際に身体は、そんな猶予は無いので…
ながら…』と、半ば押し問答になりそうな会話に息子が割り込んで、『いや、先
日から入院できる様にお願いします!』って入るものだから、私もつい興奮してし
アホか! 待ちに待ったお前の挙式を断念して、何で入院せにゃアカンねん!
ったら、死んだほうがマシやわぁ!ボケか?』父の身体の事で心配のあまり、自
青れての挙式より、父の身体を最優先に担当医師に伝える息子に、大人気
興奮して状況も省みずに大声を出す我が身が情けなく想え、改めて、この[多
骨髄腫]を恨んだ。　「何で、俺が癌やねん…」

生で初めての入院」

連休の直前に再検査をして、腎臓の数値データの安全性が確認できたの
休明けの5月9日から、人生初の入院生活を送ることになった。治療しながら
とデータ管理で、びっしりとスケジュールが組まれている。まるで他人事の様に
の2、3日はとにかく自覚のない病人にしか見えなかっただろう。見る事、する事
が新鮮で、看護師にやたら理由を求めては質問攻めにしたり、困った患者に
なかっただろう。看護師と言えば、初めて体験して分かったのが本当にアタマ
がる想いで(感謝)でしか言い表せない。24時間体制で、看護師、薬剤師、理
法士、医師のチームが始動する事になった。当初、京都大学医学部の治験
として協力の依頼があったが、息子の助言もあって断った。元来、医学の発
無ければ還暦を過ぎて尚、健康に生きる人々は、どれだけ存在するだろうか?と
が[生の執着]ほど見苦しいものはない、のが持論だ。人間は抗えない宿命に対
命に生きる中で、生への感謝や人生の大義を見出すべきで、科学技術や医
進歩が必ずしも人間に幸福を保障する訳ではなかろう。限りのある時間(人生)
かに生きそして如何に死ぬか、要は与えられた人生寿命をどのように全う出来
が本質であり、究極は『人は死ぬ為に生まれる』と解釈しても良いと思う。
間の入院生活は、じっくり人生を再考察、再検証するのに恰好の時間となり、
こかまけて読めなかった本も3冊読めたし、何よりも、より具体的な自分の『未
了形』スケジュールの検証に貴重な時間をもたらしてくれた。これまでと違って、
未来は『死』であり、その未来に立って、今(現在)を具体的に想い、直ぐに実
来るのだから、こんな幸せは、そうなかなか無いだろう…まさに【感謝】のみである。

人としての自覚]

生活も1週間を過ぎると、流石に病人としての自覚が出来てくる。
は『多発性骨髄腫』の病気自体を感情に任せて遠ざけていたが、入院後は、
ありとあらゆる情報入手に余念がない。『自分自身が、この敵(病気)を知らず
して、如何に闘うのか』の精神で何事にも積極果敢に行動する。加えて、自身
の身体の変化が著しく、入院前より歴然と衰え、身体の異変を自覚せざるを得
ないレベルにまで低下した、これまで無かった症状に正直言って閉口した。
あっさり言えば『まさに老人そのもの』。周りに『実年齢より若く見える!』と言われ、
ほくそ笑んでいたのが、見る影もない状態の自覚は、案外と辛い。実際、身体
が動けず、痛みと闘っているのだから、諦めれば良いものの、なかなか捨てきれ
ないのが[若さ]という称号だ。年齢の割に髪も有る方で、同級生に羨まれる事
もあるが、この先[抗ガン剤]を大量に服用することから、脱毛が避けられない事
を聞かされると、さすがに落ち込む…。いっそのこと開き直ってスキンヘッドを想
定してみるが、塾の先生らしからぬ容姿、人相が想像され、それはそれで生徒
が近寄りもしないことを考えると、崖っぷちの新たな悩みと言える。入院中は、CT
、MRI レントゲンと検査して、我が身の内部を垣間見たが、実際に第5番の
脊椎が粉砕骨折していた画像はショックだった。『だから、痛みが尋常じゃぁ無
かったんだ…』しかも、現在も日々全身の骨が溶けて[症状の一つ]いるらしく、
不注意から容易に骨折するので、その防止法を散々レクチャーされるぐらいに、
我が骨が、か細くスカスカになっているのが手に取るように鮮明に見えた時は、
驚きと共に信じたくは無かった。若い頃から格闘技はじめスポーツ全般に興じて
人並外れた体力自慢と頑強な肉体を自負していただけに、同一人物とは思え
ないほど、その認識の乖離を埋めるのが大変だった。これまで歯医者ぐらいしか
病院に行った記憶が無いほど、健康そのものであったが、今後は病人の自覚
が最優先事項になった。要は、別人になったという認識が必要という事だ。
くしゃみするだけで骨折も有り得るやせ細った我が身の骨と、骨髄は全て癌化し
た状態らしく、進行度合でいう【ステージ3】の末期癌である事に変わりは無い。
末期癌の自覚がなによりも大切だ。

◆[発症率… 5人/10万人、5年生存率…50％、完治、根治せず]

最初に『多発性骨髄腫』の現状医療データを聞いた時、不思議なぐらい泰然
自若としていた自分がある。[血液の癌]では(白血病)が有名だが、この我が
病気は相当稀な病気で、発症率が10万人あたりで5人らしく[宝くじ]を当てた様
なモノである。現医療レベルでの根治、完治はせず、[5年生存]が50％との統
計データである。『だから、何なんだ?』受験生に、倍率や滑り止め受験校を推奨
しない『本気志望の絶対合格!』を28年間指導してきた塾長の答えはこうだ!!
『この世に生まれたことが奇跡。命ある限り、夢は絶対に諦めない!』　(次号に続く)

◆今月のアペックス便りから、塾長の呟きならぬ[塾長ブログ]としてアップする事に、最初は躊躇しました。しかし、稀な難病に疾患した自分の宿命として、教育の一端を担ってきた自負と未来に繋がる[夢]を、アペックスで縁を頂いたこれまでの塾生、ご父母の皆さまと共有したく、又、私の[闘病記]の証として、毎月続く限り、素直に感謝を込めて書き記す事にしました。
今、全ての[存在]に対して有難いと感じ、喜びで一杯です。未だ自分の病気を知って1か月弱ですが、私の中で眠っていたエネルギーが、とんでもない勢いで動き始めたことを全身で実感しています。人生、教育、遊び、趣味、失敗、挫折、成功、達成etc…。いろんなことを、今後も感じるままに呟きますので、宜しくお願いします。